

学校便り五月号

みほそ

平成二十八年五月六日
発行者 校長・園長 與古田思信



春の遠足

四月二八日に幼稚園、ゴールデンウィークの切れ目の五月二日に小学校の春の遠足を行いました。幼稚園児は、前日の雨で公園のコンディションが悪かったのですが、楽しく遊ぶ事ができました。小学生は、元気に遊ぶ姿を見て充実した休みを過ごしているなど感じました。

今年、はじめてお弁当作りを手伝うようにお願いしました。四年生の弁当を見たのですが、「おにぎりを握ったよ」「弁当箱に詰めたよ」と多くの子が得意げに話してくれました。中には、「全部自分で作ったよ」と言う子もいて嬉しくなりました。お弁当を手伝う取り組みを通して、食に関する関心を高めるとともに、お母さんの仕事の大変さに気付いたことと思います。各家庭での取り組みに感謝します。



がんばりノート一冊目を終わったよ

今年も家庭学習でがんばりノートを行っています。四月二五日に二年生と五年生の二人の子が最初の一冊目を終わりました。二人とも、家庭学習を毎日行ってくれました。その後も、どんどん一冊目を終えたノートが校長室前の回収箱に入っています。家庭学習は毎日行い習慣化することが大切です。多くの子が目標の年間八冊を終えることができるよう校長室から応援しています。

七一歳を向かえる本校の歴史

本校は、「戦後沖縄における学校教育の発祥の地」です。太平洋戦争末期の沖縄地上戦の苦しみの中にあっても、なお教育を守り抜こうとする住民の熱意が盛り上がり、昭和二十年五月七日開校しました。沖縄の終戦が六月二三日にあたるため、本島南部ではまだ激しい戦闘が続いていた時です。汗と泥にまみれ、命をけずりながら開校実現へ向け尽力された住民のご苦労は想像を絶するものがあつたと推察します。

全島が戦場化し、各地から難を避けて当地に集まった住民の師弟のうち児童約七百九十名を集め、校長山内繁茂氏他職員二十名、給仕一名、用務員二名、理髪師一名の職員で開校しました。校舎はもろろん、机、腰掛け、教科書、学用品など何もなく、露天で地べたに座って砂の上に指で字を書かせるといふことから教育が始まったさうです。

十月には、在籍児童が四千五百八名、教員数六四名に増え、一校で教育することが困難になり、第一学園（城前小学校）・第二学園（宮森小学校）・第三学園（石川高校）に分かれることになりました。

学校の校舎は寄せ集めの材木と米軍の使い古しのテントで作られたテント教室、トタン教室、藁葺き校舎、木造校舎、ブロック校舎、鉄筋校舎（体育館にも冷房完備）と建て替えられました。

このような変遷を経て、現在の城前小学校は今年で七十一歳を迎えます。昨年度までの卒業生で七七八四名を数え、政界、実業界、教育界などあらゆる分野で活躍しています。

私たちが通っている学校に誇りを持ち、自らも自信を深め、郷土と母校を愛する心と態度を養うことを目的に本日「開校記念集会」を実施しました。ご家庭でも、話題にしてほしいと思います。



開校当時の城前小

オクラレルカ

▼先月、大宜味村喜如嘉のオクラレルカ畑に行きました。▼一面の田んぼいっぱい咲き誇る紫色の花に感動を覚えまして。▼田んぼの周りには「ゴミを捨てないで」「野鳥のため猫を放さないで」など看板があり、自然を大切にす地域の人々の思いを感じました。そのためか、ゴミ一つ無く、近くを流れる川の水もとてもきれいで、魚も気持ちよさそうに泳いでいました。▼本校では、毎年四年生が石川川を調べています。環境保全のために看板の設置なども行って、川を大切にす気持ち醸成しています。▼環境を大切にす気持ち改めて感じる機会となりました。

